

## 【一般演題2】 第8席

## 「『甲乙經』の鍼灸禁忌について」

東京 噴峻 年思子

『甲乙經』は出土資料を別にすれば現存する鍼灸書では最古のものであり、その中でとりあげられている経穴は伝統的な治療穴として、今日に至るまで臨床上重要な地位を占めている。

この経穴中には鍼灸禁忌が指示されている穴がいくつかみられる。しかし現在、この鍼灸禁忌が意味するところは明らかでなく、その取り扱いも曖昧なものとなっている。この鍼灸禁忌というものは後世の多くの鍼灸書中でも取り上げられている問題であり、その意味を明らかにすることは鍼灸臨床上においても重要な意義をもつものと考えられる。

今回の検討においては『甲乙經』卷之三及び卷之五の記述を主体とし、その他の関連古医經についても参考しつつ、禁鍼・禁灸の意味を明らかにするものである。